



労働図書資料室報

第1号

2007年5月18日発行

《発行者》
財団法人全労連会館
〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4
TEL:03-5842-5610 FAX:03-5842-5609
労働運動総合研究所
〒102-0093 東京都千代田区平河町1-9-1-501
TEL:03-3230-0441 FAX:03-3230-0442

「堀江文庫」の移管・公開へ向けて

日本福祉大学図書館との提携進む

わが国のすぐれた経済学者、故堀江正規先生の多数の蔵書は、先生がかつて教鞭をとられた日本福祉大学に寄贈され活用されてきました。

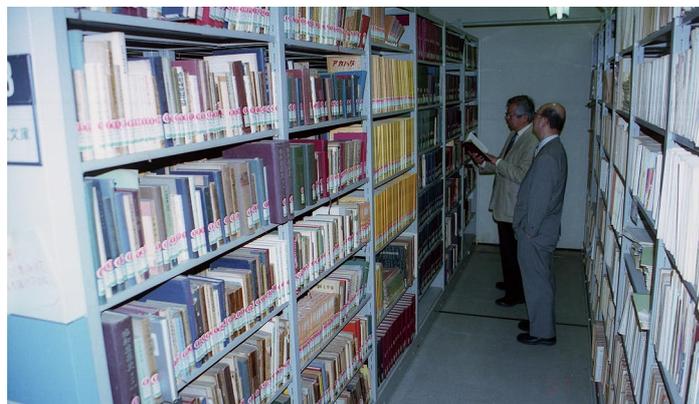
今般、同大学附属図書館と提携して、この貴重な「堀江文庫」を広く研究と労働運動に活かさないかと考え、同大・大木一訓教授のご尽力もいただき財団法人全労連会館（全労連会館）と労働運動総合研究所（労働総研）が共同で運営・管理する「産別会議記念・労働図書資料室」（滝野川資料センター内）に移管し、閲覧できるよう準備を進めることとなりました。5月8日、受け入れ側の全労連会館と労働総研の藤田、藤吉は大木一訓先生の案内で同大学附属図書館を表敬訪問。図書館長・小泉純一、図書課長・岡崎佳子両氏と移管手続きについて打ち合わせを行いました。

なお、「堀江文庫」の移管については一定の準備期間を設けることとし、公開・閲覧の時期については、遅くとも今年度中には実現の運びとしたいと考えています。正式な日程については改めてお知らせします。

「図書・資料目録」の閲覧について



日本福祉大学附属図書館作成の「堀江文庫目録」については、全労連会館産別記念室と労働総研事務室に常備、閲覧に供します。



「堀江文庫」を視察する大木一訓日本福祉大教授と藤吉信博氏（労働総研事務局次長）

堀江正規（ほりえ・まさのり）氏 略歴

- 1911年 12月 三重県生まれ
- 1929年 立教大学文学部英文科入学。「ナップ」「コップ」活動に参加、検挙・拘留
- 1945年～ 東京新聞編集局経済部長。同社従業員組合や産別会議結成などに協力。



- GHQの圧力で同新聞社強制休暇処分、退社。
- 1950年 経済研究所創設・主宰。
- 1951年～ 日教組、炭労、国労、自治労、全日自労、全自運、民放労連などに協力。労働者教育協会理事、労働者教育にあたる。
- 雑誌『経済』、『労働・農民運動』編集委員、執筆協力。『労働組合運動の理論』全7巻、『現代の労働組合運動』などの編集・執筆にあたる。

- 1972年 日本福祉大学教授（～1975年）
- 1975年 4月10日 逝去
- 1977年 『堀江正規著作集』全6巻（大月書店から）刊行

堀江文庫

1975年逝去された堀江正規先生の所蔵図書（5417冊）、雑誌、機関誌、労働組合関係資料、手稿などの全て（約1万点）は、1990年、日本福祉大学附属図書館に寄贈され「堀江文庫」として今日まで活用されてきました。その図書は、科学的社会主義理論の創設者たちの全集から歴史・経済学・労働運動の多岐にわたるもので、戦前と戦後期の早い時期の貴重な文献が多数そろえられています。

「産別記念・労働総研資料室」 開設1周年

財団法人全労連会館は、昨2006年6月1日「平和と労働センター・全労連会館」開設5周年を記念し、労働総研の協力を受けて財団所有の滝野川資料センター（ユニオンコーポ内）に「産別記念・労働総研資料室」を開設しました。

資料室は、その名称の示すように、①産別会議の所蔵図書・資料に、②労働総研資料を合流させたもので、この1年間、整備と補充を行いつつ、関係者への公開・閲覧に供してきました。両団体が共同で管理・運営するこの資料室は、一面既報のように「堀江文庫」の移管・合流によりさらに充実した「図書資料室」として関係者、研究者、労働組合運動に役立てるために提供されるものです。

当資料室は当面、運営・管理上、全労連会館関係者と労働総研会員、資料室利用登録者の調査研究のために公開、閲覧に供しています。



前列右から、小林洋二財団理事長(当時)
生井宇平・杉浦正男・宇田川次保・堤信一氏ら
旧産別記念会メンバーを迎えて資料室開設(2006年6月1日)

「産別会議記念・労働図書資料室」では、次のテーマについて資料収集を開始しています。ご協力いただける方は連絡下さい。

①統一労組懇運動資料

中央・地方・産別など各分野を網羅したものとす
る計画です。資料の貸与・提供など関係者の協力をお
願いします。

②レッド・ページ関係資料

1949年から開始されたレッド・ページ攻撃の実
態とそれとの闘いの関係資料の収集を開始していま
す。各地のレッドページ反対同盟(産別、職域を含

産別会議原資料のデータ化構想

—中・長期計画の検討に着手—

戦後直後の労働組合運動をリードした全日本産業
別労働組合会議(産別会議)の膨大な原資料は、解
散後、産別記念会から大原社研(法政大学大原社会
問題研究所)に寄贈、保管され今日に至っています。

昨年、滝野川資料センターに「産別記念・労働総
研資料室」が開設され、さらに、「産別会議記念・
労働図書資料室」に発展したのを契機に「産別会議
原資料」の総集成を要望する声が高まりました。

これを受けて、「労働図書資料室」では、大原社
研所蔵の産別会議諸資料について、データ化による
保存と閲覧システムが確立できないかどうかの検討
に入ることにしました。

この作業は、大原社研の協力を得たうえで当資料
室の中・長期計画として構想するものです。当面、
大原社会問題研究所との協議を進めつつ、その協力
のもとに「全資料目録」の作成、保存状態などの事
前調査を行うためのチームを立ち上げたいと考えて
います。関係者、会員の積極的なご協力を要請しま
す。

「産別会議記念・労働図書資料室」は、財団法
人全労連会館が所有する滝野川資料センター(滝
野川ユニオンコーポ4階)に開設。資料室には、
①産別会議蔵書・資料、②労働総研蔵書・資料を
中心に保管・閲覧に供しています。

資料室の運営・管理は、全労連会館と労働総研
の双方の協力で進められています。その窓口は、
全労連会館＝藤田、労働総研＝藤吉です。

今後の労働運動関係 資料収集計画

む)に協力するもので、将来、「レッド・ページ資
料室」として発展させる計画を検討中です。関係者
による記録・資料、関係図書などの提供にご協力下
さい。

③労働運動史関係

「労働図書資料室」には、戦後直後からの単産・
単組など多数の労働運動史を収蔵しており、ひきつ
づき収集を図っていきます。提供にご協力下さい。